

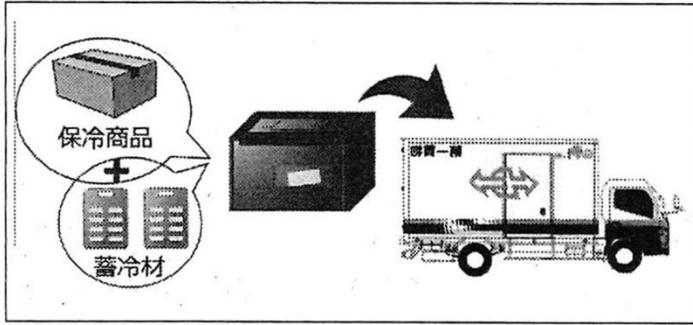
2018年9月10日掲載 日本流通新聞

第一貨物

保冷輸送スタート

保冷ボックス活用

第一貨物（武藤幸規社長）は3日、保冷ボックスと蓄冷剤を活用した保冷輸送を開始すると発表しました。商品を保冷ボックス



スに入れたパッケージは、一般貨物車両への積み合わせもできるため、輸送品質と温度管理の両輪でコールドチェーンを構築・提供する。図。

保冷ボックスは商品一つに対応する小型から、ロット輸送に適した1100パレットサイズまで用意。パレットサイズの保冷ボックスでは複数アイテムの商品を積み合わせることが可能となり、伝票作成の時間や荷札の貼り付け作業時間の短縮が図れる。

保冷輸送は、①2-8度GDP基準に対応②マイナス20-0度の冷凍輸

送③0-10度の冷蔵輸送——と多様な温度帯の蓄冷剤を備え、商品特性に合わせた温度管理や長距離輸送が可能だ。なお、

保冷は商品を預かった後、翌々日の輸送にも対応できることから、保冷商品の長距離輸送が可能となった。